



自然と人の文化

多治見市文化財保護センターだより No.55 2020.3

企画展

AMAGANE

尼ヶ根古窯 —瀬戸黒のはじまり—

あまがね
尼ヶ根古窯は16世紀後半、千利休が活躍していた桃山時代に多治見市小名田町で操業していた大窯です。大窯は単室・地上式の窯で、須恵器や山茶碗などを焼いたあながま（単室で地下・半地下式の窯）の後に登場します。桃山時代の美濃焼で有名な瀬戸黒、黄瀬戸、志野も大窯で生産が始まったやきものです。

尼ヶ根古窯では初期の瀬戸黒が焼かれました。瀬戸黒茶碗といえば、低い高台と角張った腰、胴には大胆なへら篋使いが施された姿が思い浮かびますが、尼ヶ根古窯で焼かれた初期の瀬戸黒は、丸みのある腰をもち、高台は高め、長次郎が手がけた楽茶碗のような姿をしています。まだ中国陶磁を写した製品がほとんどであったこの時代に、日本独自のデザインで作られた尼ヶ根古窯の瀬戸黒は革新的なやきものであったと言えます。今回の展示では瀬戸黒に焦点を置き、尼ヶ根古窯と周辺の窯で出土した瀬戸黒を併せて展示し、その変容していく様子をご紹介します。

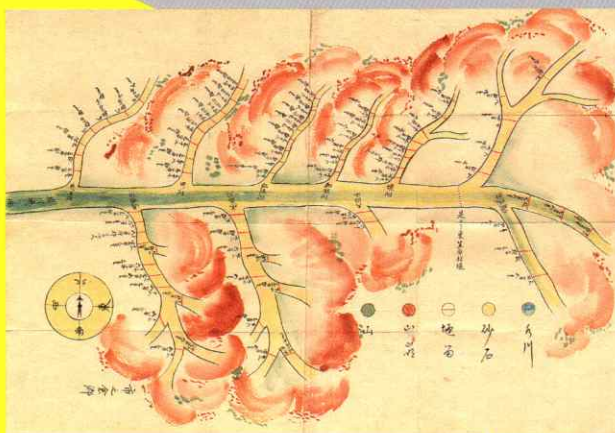
会期：1/14(火) — 6/19(金)

研究紀要第 14 号を発行しました！

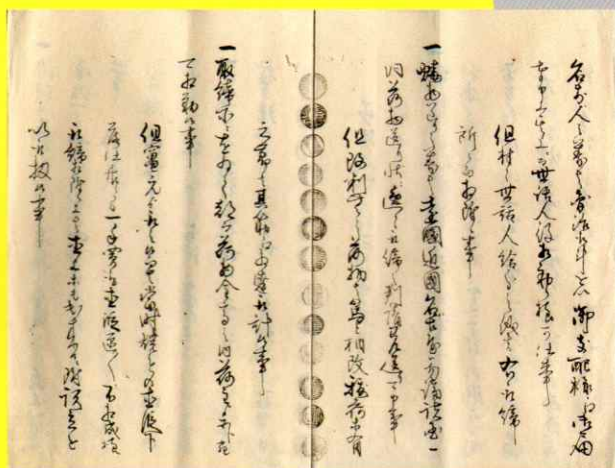
文化財保護センターでは調査・研究の成果を研究紀要として編集・発行しています。令和2年3月に第14号を発行しました。

本号には、江戸時代の終わりから明治時代の東濃地域の窯業生産と人々の暮らしについて、3つのテーマの論文を掲載しました。1つめは平成28年に多治見市有形文化財に指定された西浦家文書を研究した「西浦家のあゆみと美濃焼物～西浦家文書研究のために～」です。西浦家文書は江戸時代中期から大正時代にかけての古文書で、特に美濃焼物の生産販売についての歴史を知ることができる産業史料です。より多くの市民、研究者に西浦家文書を利用していただけよう、その手引きとなるような内容です。2つめは平成27年度に開催した文化財保護センター企画展「土岐川と生きる～江戸時代の治水と窯業～」の内容を深く掘り下げ、窯業燃料としての森林の伐採や原料採掘が引き起こしたと考えられる水害や治水について紹介しています。3つめは明治時代に窯業原料として利用されるようになった石灰について、根本町地内に残る石灰窯の測量調査をおこなった成果を「根本の歴史を語る会」から寄稿いただきました。

この研究紀要第14号は、文化財保護センターおよび美濃焼ミュージアム等で購入することができます。(税込み700円で販売)



▲西浦家文書(市之倉郷石砂留普請絵図)



▲西浦家文書(美濃焼物取締規定)

昔のトイレの展覧会を開催しました！

令和元年10月13日(日)・14日(月)の「たじみ茶碗まつり」に伴い、文化財保護センター分室(美濃焼卸団地内)にて「もよおしもの一昔のトイレ」を開催しました。

会場では明治時代に瀬戸で製造された染付便器を中心に、江戸時代後期に作られた尿瓶や、昭和時代の統制陶器のおまる、洗面鉢などの衛生陶器を展示しました。昔のカーンで手洗いができる体験コーナーや、昔のトイレと記念撮影ができるコーナーを設け、楽しむ子どもたちや、昔を懐かしむ方の姿が多く見られました。また、こども陶器博物館と共同で開催したクイズラリーも好評で、2日間で300名以上もの来場者がありました。



▲染付が施された美しいトイレ。



▲昔のトイレと記念撮影ができるコーナー。

多治見市詳細遺跡地図をしてみよう！

みなさんは、「多治見市詳細遺跡地図」をご存知でしょうか？これまで、あまり紹介してきませんでしたから、ご存知ない方も多いのではないのでしょうか？

多治見市詳細遺跡地図は、多治見市教育委員会が実施してきた埋蔵文化財発掘調査や平成7年度から平成12年度の6年間にわたる分布調査の結果をもとに、初版が平成14年3月に発行されました。

市内には790箇所を超える窯跡や遺跡が確認されていますが、近年、残念なことに歴史を物語る数々の遺跡が開発等によって失われつつあります。

多治見市詳細遺跡地図は、こうした埋蔵文化財の分布状況をまとめたもので、どなたでも自由に閲覧することができます。文化財保護センターのほか、市役所本庁舎1階市政資料コーナーでも閲覧が可能です。ぜひ一度、ご覧になってください。

(地図拡大) ▶
家の近くに遺跡
はあるかな？



▼遺跡地図表紙



第66回文化財防火デーにともなう 立入点検、永保寺防火訓練

1月26日は、昭和24年の法隆寺金堂の火災を受けて制定された「文化財防火デー」です。文化財保護センターでは文化財防火デーに合わせ、市内の指定文化財を所有する寺社等に立入点検を行いました。また、永保寺では平成15年には永保寺本堂・庫裏の火災があり、以後防火訓練を行っています。本年は2月2日（日）に行い、約100名の消防団、関係者の参加がありました。

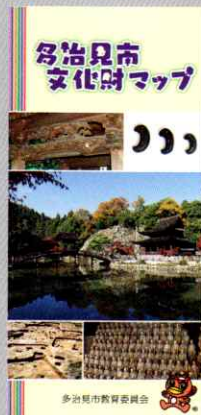


▲永保寺防火訓練の様子。放水銃で観音堂に水を掛けています。

多治見市文化財マップ完成！

令和2年2月に多治見市文化財マップを発行しました。このマップでは多治見市内の国・県・市で指定されている文化財を中心に紹介しています。

文化財保護センターや本庁舎のほか、美濃焼ミュージアム、ヤマカまなびパーク、多治見駅観光案内所等で入手可能です。散策のお供にご利用ください。文化財を訪れる際は、見学可能な時間、時期などを確認の上、拝観の許可が必要な文化財はあらかじめ所有者の許可を得てください。



▲文化財マップ表紙

新しい收藏品 豊岡小学校の^{きしょう}徽章

精華小学校の前身である豊岡小学校の徽章が新しく当センターの收藏品に加わりました。

精華小学校は明治6年に審問学校として開校したあと、明治26年には豊岡尋常小学校、明治34年には豊岡尋常高等小学校と、その後も何度か改称をし、昭和22年に現在の校名になりました。写真の徽章は豊岡尋常小学校か豊岡尋常高等小学校の徽章で、直径が約3センチと大きいことから制帽に付けられたのではないかと考えられます。この資料について詳しくご存知の方がいらっしゃいましたら、情報をお寄せください。



▲留具は二股の割紙です。

カワニナ調査について

文化財保護センターでは、市天然記念物である「北小木のホタル」の調査の一環として、毎年秋にホタルの幼虫のえさであるカワニナ（巻貝の一種）の調査を行っています。今年度の調査は10月20日（日）に、ホタルの発生する北小木川と神明洞川の計14地点で行いました。



▲川底の砂利からカワニナを探します。

今回カワニナ数は全体的に少なく、例年と同様、川の周囲が木に覆われ日が当たらない場所ではほぼ確認できず、反対に日が当たる場所ではある程度個数が確認できる、という結果でした。また、今年度の調査は雨が降った翌日であったため、カワニナが流されるなどして、より少なかったと考えられます。

これまでの調査によりホタルが大発生した後の数年間は、カワニナ数が減少することが分かっています。今年度ホタルは大発生したため、来年度のカワニナ数も少ないと予想されます。今後もホタル及びカワニナ調査を続けデータを蓄積し、ホタルの保護に役立てていきたいと思っております。最後になりましたが、参加していただきました皆様には、この場を借りて厚く御礼を申し上げます。

カワニナの合計数とホタル生息合計数

	H06	H07	H08	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R01
ホタル生息合計数(匹)	888	489	439	743	1963	529	189	1183	954	391	1149	338	345	313	1337	1709	449	498	596	673	1502
カワニナの合計数(匹)	290	982		1187	979	234	870	538	165	791	353	80	260	385	915	426	1082	390	338	609	252

※H8～13年まではカワニナ調査なし。

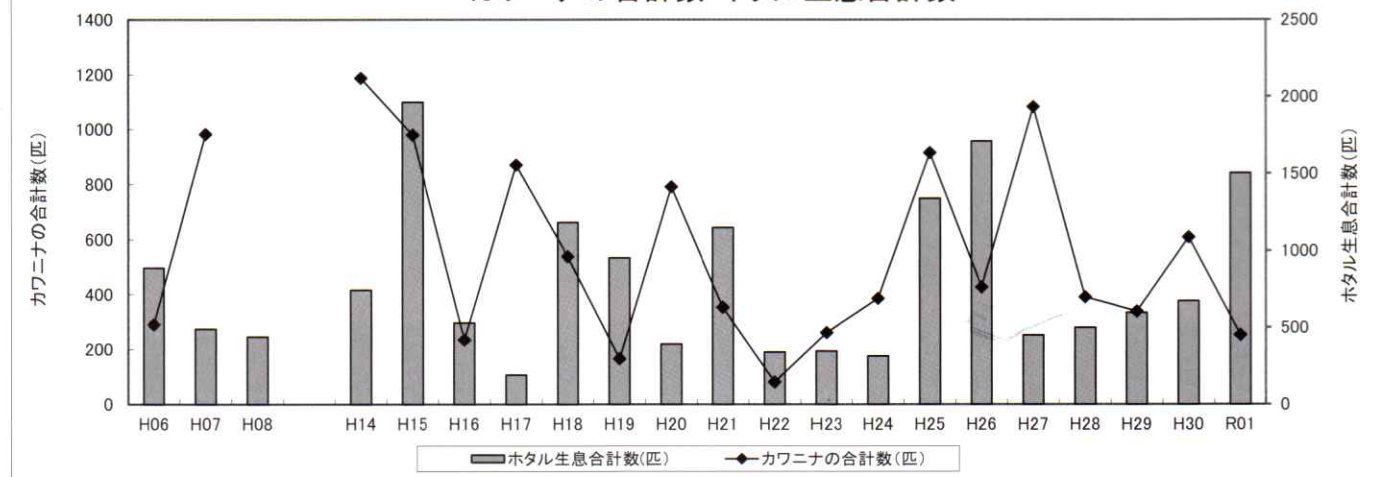
※ はホタル大発生年のホタル数。

はホタル大発生の前年のカワニナ数。

※H16年以降のホタル数は三面張改修地点を含む。

※H22、23年は護岸工事を行っている。

カワニナの合計数・ホタル生息合計数



多治見市文化財保護センター

〒507-0071 岐阜県多治見市旭ヶ丘 10-6-26

TEL(0572)25-8633 FAX(0572)24-5033

E-mail:hogo-cen@city.tajimi.lg.jp

ホームページ: <https://www.city.tajimi.lg.jp/bunkazai/>

〈利用案内〉 開館時間：9:00～17:00（最終入館 16:30）

休館日：土・日・祝日、年末年始

入場：無料

〈交通案内〉 タクシー：多治見駅から約20分

バス：東鉄バス「美濃焼卸団地前」下車 徒歩5分

